



# 名勝

# 満濃池

## Manno-ike Reservoir

満濃池は、香川・徳島県境の讃岐山脈から北へ延びる丘陵が川によって浸食され、刻まれた谷底の狭くなった部分に堰堤を築造したアーチ式アースダム※1のため池であり、満水面積 138.5ha、貯水容量 1,540 万 m<sup>3</sup> を誇る農業灌漑目的としては我が国最大のため池です。

堰堤から南東を望むと、広大な池面の周囲をなだらかな丘陵が取り囲み、更にその背後には讃岐山脈がそびえるなど、優れた風致※2 景観をもっています。



飛鳥時代末葉に築造され、度重なる破堤と修築を繰り返して現在に至る豊かな歴史性を持ち、中でも弘仁12年(821)の弘法大師空海による修築の事績は著名です。

一方で、満濃池の風致景観は、江戸後期から幕末の地誌である『金毘羅山名勝図会』や『讃岐国名勝図会』等において「山水勝地 風色の名池」として取り上げられるなど、名所として知られてきました。

令和元年10月16日、築堤から展望する風致景観が優秀で、古来著名な名所として重要であることから名勝に指定され、保護が図られることになりました。

※1 アースダム…土を台形に盛って造ったダム。 ※2 風致…自然の風景などのもつおもむきや味わい。



春  
かりん広場より

秋  
北岸より夕暮れ

冬  
堰堤の雪景色

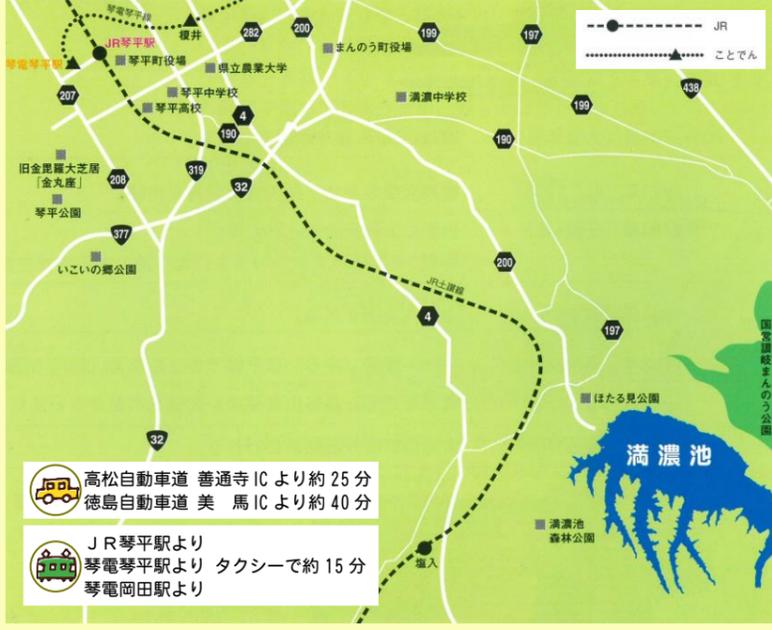
### 大川山から観る満濃池

満濃池の南、徳島県との県境が東西に走る大川山(標高 1042.9m)より撮影したものです。大川山は満濃池の水源となる金倉川が流れ下り始める地です。山頂に建立された大川神社は古代より雨乞いの神社として知られ、早魃になると国司が降雨を祈願していました。現在も毎年 7 月に県指定無形民俗文化財の大川念仏踊りが奉納されます。

写真は大川山登山道を車で 30 分ほど登った、道沿いの展望台からの眺望です。中央西に見えるのが満濃池で、北の瀬戸内海へと広がる平野が、満濃池が潤す丸亀平野です。満濃池の北西には名勝象頭山、東端には讃岐富士と呼ばれる飯野山が見えます。

大川山の西尾根には国指定史跡中寺廃寺跡があります。平安時代に栄えた山寺ですが、満濃池を弘法大師空海が修築したところには僧が修行していたと考えられます。この中寺廃寺跡から見下ろす満濃池も水面に空が映り美しく、池の広大な存在を実感させられます。

### アクセス



高松自動車道 善通寺 IC より約 25 分  
徳島自動車道 美馬 IC より約 40 分

JR 琴平駅より  
琴電琴平駅より タクシーで約 15 分  
琴電岡田駅より



満濃池はまんのう町で初めての名勝です!

さぬき歴史文化探訪ナビ

香川県の文化財の魅力をご紹介します  
満濃池以外の文化財もぜひご覧ください

# 満濃池の歩み

## 満濃池の主な歴史

西暦	和暦	概要
-	-	大宝年間(701-704)、讃岐国守道守朝臣、万農池を築く。(萬濃池後碑文)
820	弘仁11	讃岐国守清原夏野、朝廷に万農池修築を伺い、築池使路真人浜継が派遣され修築に着手。
821	弘仁12	5月、復旧難航により、築池別当として空海が派遣される。その後、7月からわずか2か月余りで再築される。
851	仁寿1	秋、大水により万農池を始め讃岐国内の池がすべて決壊する。
852	仁寿2	閏8月、讃岐国守弘宗王が万農池の復旧を開始し、翌年3月竣工。
1022	治安2	満濃池、再築。
1184	元暦1	5月、満濃池、堤防決壊。この後、約450年間、池は復旧されず放置され荒廃。池の内に集落が発生し、「池内村」と呼ばれる。
1628	寛永5	西嶋八兵衛が満濃池再築に着手。
1631	寛永8	満濃池、再築。
1849	嘉永2	長谷川喜平次が満濃池の木製底樋前半部を石製底樋に改修。
1853	嘉永6	長谷川喜平次が満濃池の木製底樋後半部を石製底樋に改修。
1854	嘉永7	6月の伊賀上野地震の影響で、7月5~9日、満濃池の樋外の石垣から漏水。8日には矢倉樋が崩れ、9日の九つ時に決壊。満濃池は以降16年間廃池。
1866	慶応2	洪水のため満濃池の堤防が決壊して金倉川沿岸の家屋が多く流失し青田赤土となる。長谷川佐太郎、和泉虎太郎らが満濃池復旧に奔走する。
1869	明治2	高松藩執政松崎洪右衛門、長谷川佐太郎と満濃池視察。8月、満濃池、岩盤の掘削によって底樋とする工事に、軒原庄蔵を起用。満濃池の復旧工事に着手。9月、岩盤の掘削工事に着手。
1870	明治3	3月、石穴底樋貫通。6月、満濃池堤防復旧。7月、満濃池修築完了。
1879	明治12	満濃池水利土工会が組織される。
1893	明治26	5月23日、満濃池普通水利組合設立。
1905	明治38	2月、満濃池第一次嵩上げ事業に着手。
1906	明治39	10月、満濃池第一次嵩上げ事業が完了。
1914	大正3	9月、満濃池の赤レンガ取水塔が完成。
1922	大正11	3月、官有地満濃池が普通水利組合に無償譲与となる。
1927	昭和2	満濃池第二次嵩上げ事業に着手。堤高1.52m増、余水吐改築及び用水幹線1,220m延長の改修を行い、財田川からの承水隧道400m延長の新設工事に着手。
1930	昭和5	満濃池第二次嵩上げ事業が完了。
1940	昭和15	満濃池第三次嵩上げ工事及び天川導水路工事を県営事業として開始。
1942	昭和17	満濃池の堤体改築、堤高6mの嵩上げに着手。
1951	昭和26	満濃池普通水利組合を満濃池土地改良区に組織変更。
1953	昭和28	県営金倉川沿岸用水改良事業により、幹線水路の整備実施。
1958	昭和33	満濃池第三次嵩上げ工事が完了。
2000	平成12	2月、満濃池樋門が国の登録有形文化財となる。
2019	令和1	10月16日、国より名勝に指定される。

## 満濃池の大きさの移り変わり

時期	堤高	貯水容量	満水面積
明治3年(1870)	23.66m(標高140.66m) 十三間築堤	584万6000㎡	不明
明治39年(1906)	24.48m(標高141.48m) 三尺[0.91m]かさ上げ	660万2000㎡	94.3ha
昭和5年(1930)	26m(標高143m) 五尺[1.52m]かさ上げ	780万㎡	105.2ha
昭和33年(1958)、現在	32m(標高149m) 6mかさ上げ	1540万㎡	138.5ha

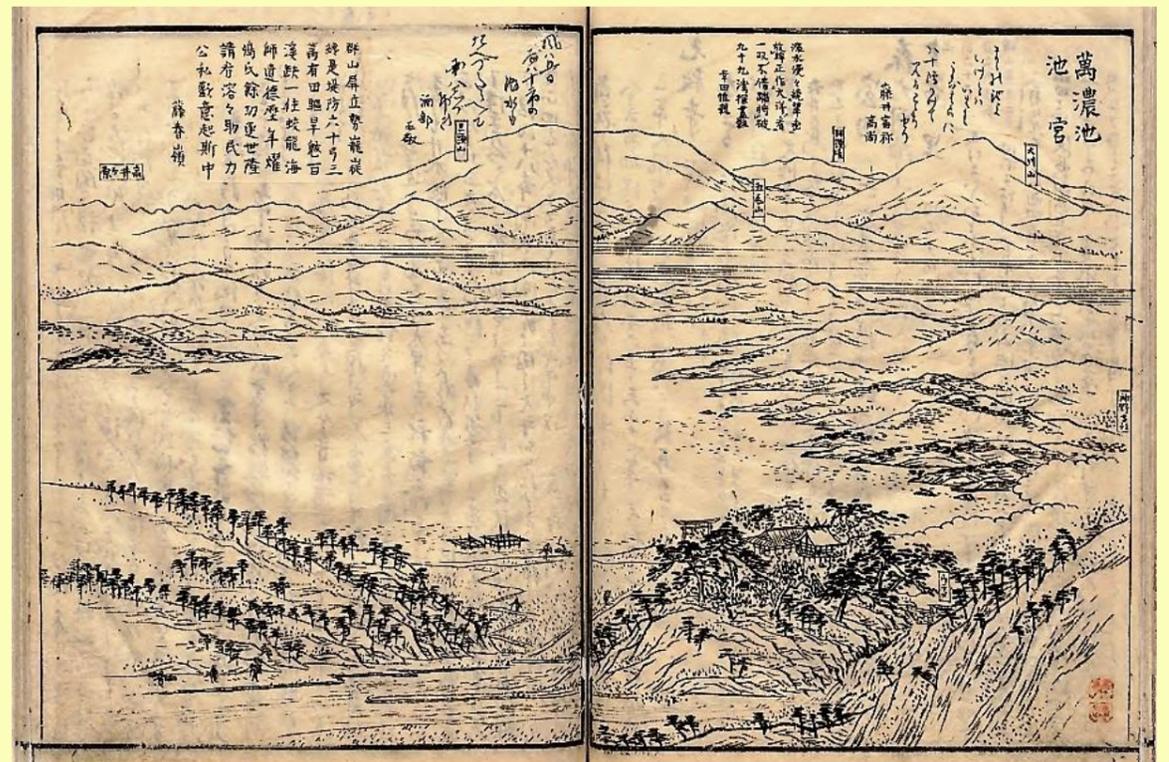
満濃池は大宝年間(701-704)に築造されたと伝わっています。背景には降雨が少なく、その降雨も急速に瀬戸内海へ流下する地理的条件の中、条里制地割に基づく耕地開発が進められ、より多くの水の確保が必要となったことが考えられます。

弘仁12年(821)に弘法大師空海が修築に携わって以来、その偉業は満濃池の由緒として現在まで語りつがれています。

中世には決壊後の池の中に村ができましたが、寛永8年(1631)に再築されました。その後、度重なる決壊にも関わらず元の姿に再築され、江戸時代以降の多くの文人によって、満濃池の周囲の山々を含めた風景美が称えられました。

明治3年(1870)の再築後、明治、大正のかさ上げで現在に近い風景となりました。大正3年(1914)竣工の「赤レンガ取水塔」、昭和7年(1932)再興の神野寺は、写真や絵葉書に盛んに取り上げられ、満濃池を代表する風景として知られるようになりました。

その後、昭和33年(1958)の第三次かさ上げ工事を経て、現代になると、南側に香川県満濃池森林公園、北側に国営讃岐まんのう公園が造られ、広大な水面と周辺の自然が作り出した雄大な風景を楽しむ場として賑わいをみせています。



讃岐国名勝図会[幕末~明治初期](国立公文書館所蔵)

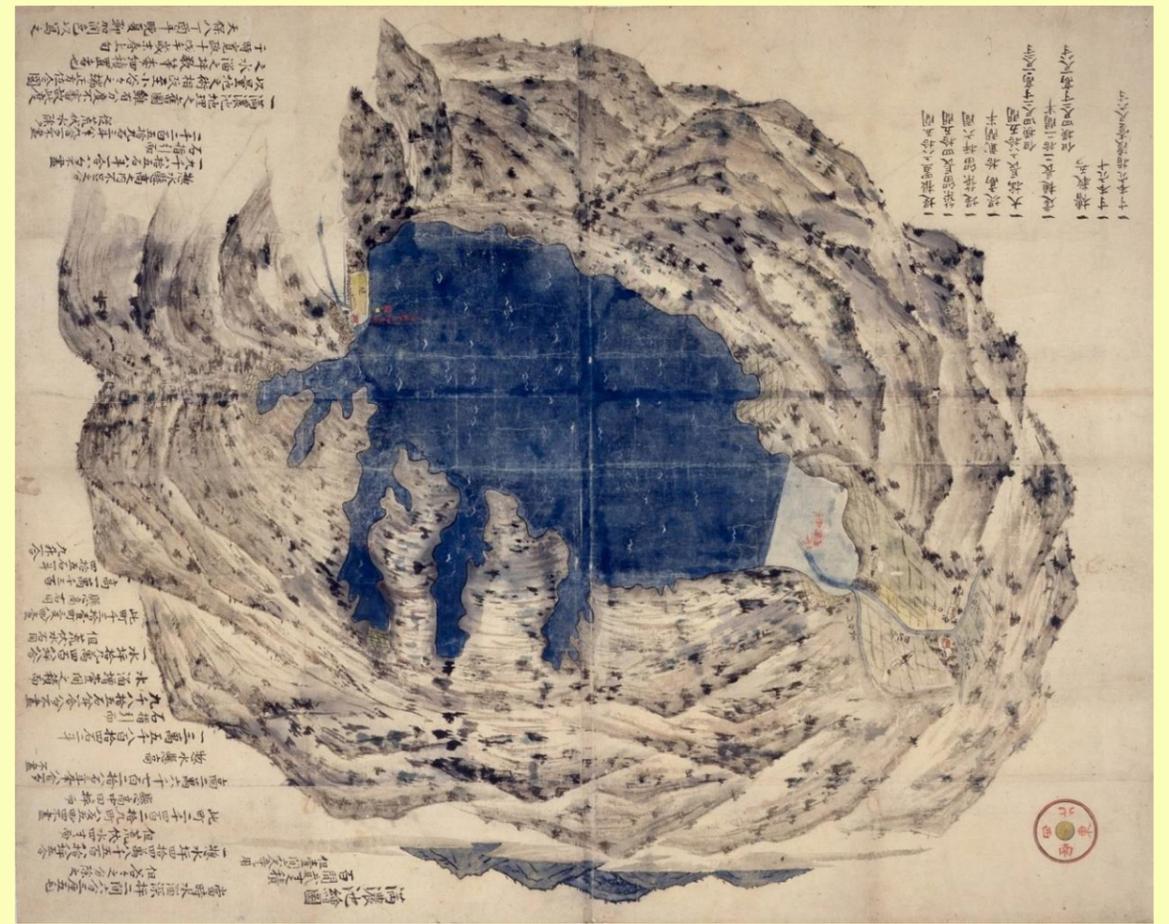
江戸時代の終わりごろの讃岐の名所・旧跡を紹介した地誌です。広大な水面を中心に、周囲の丘陵と背後の五毛山や大川山などの讃岐山脈が一体的に描かれており、上には満濃池の風景を詠んだ短歌が添えられています。



讃岐写真帖[大正5年(1916)](香川県立ミュージアム所蔵)

天皇の行幸に際して、県内百か所の名所、旧跡を紹介したものです。手前に大正3年に竣工した「赤レンガ取水塔」、遠景に大川山など讃岐山脈が写っています。

# 名勝としての満濃池



満濃池絵図 天保八丁酉年[天保8年(1837)](香川県立ミュージアム所蔵)

えんてい かんえい 嘉永8年(1631)に再築され、約220年後の満濃池の全体図です。かえい 嘉永2年(1849)と6年に木製底樋が石造りに替えられますが、い がうえのじしん 嘉永7年に発生した伊賀上野地震の影響で再び決壊します。

上の写真は、西から満濃池を望んだものです。雄大な水面の周囲に広がるなだらかな丘陵地と対照的に、背後には1,000m級の讃岐山脈が屏風のようにそびえ立つことで、奥行きが深い風景が広がっています。これは満濃池を代表する風景の構図として江戸時代の終わりごろより「讃岐国名勝図会」や名所案内に盛んに取りあげられてきたもので、以来、多くの人々に観賞されてきました。

昭和33年に竣工した現在の堰堤は、「土堰堤」という土造りでありながらアーチ式を採用した全国的にも極めて珍しい構造をもち、ゆるやかな曲線を描く姿は、雄大な水面とともに満濃池の存在感を誇らしげに示しています。

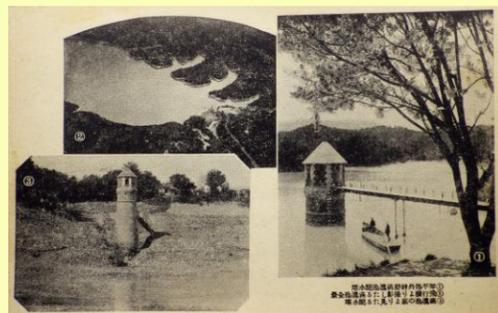
青く澄み切った水面や周囲の森林は、夜明けから夕暮れ、四季の移ろいとともに色彩を変え、来訪者を飽きさせません。

また、眺望は場所によって様々です。写真と反対側になりますが、秋の夕暮れ時に北岸から赤く染まった水面や堰堤の背後に象頭山(金刀比羅宮)を眺めるのもおすすめです。

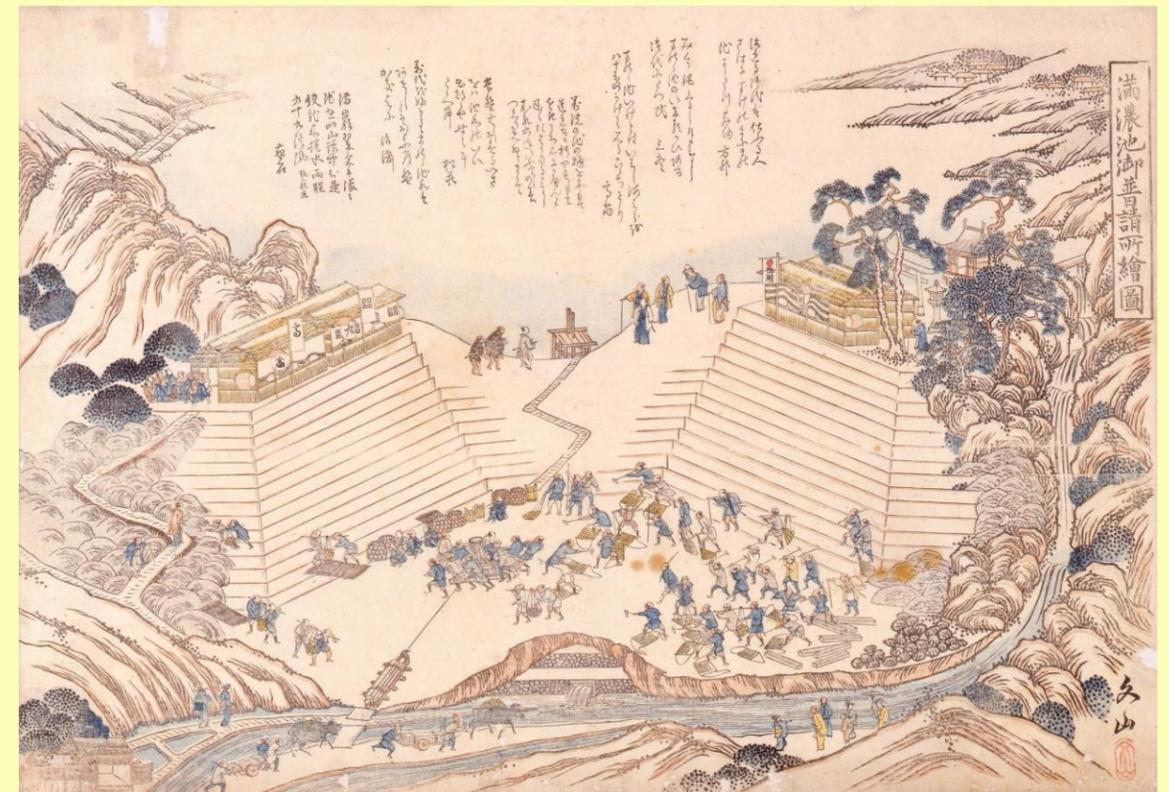
満濃池は、古代からの豊かな歴史に支えられた人工物であるため池(水面)と、周囲の自然環境が一体となった美しい風景をみることが出来ます。



満濃池弘法大師銅像除幕記念絵葉書 [昭和8年(1933)](丸亀市立資料館所蔵)



讃岐琴平名所絵葉書 [昭和初期](香川県立ミュージアム所蔵)



満濃池御普請所絵図[嘉永年間(1848-1854)](香川県立ミュージアム所蔵)

あいばぶんざん 合葉文山筆、多色刷り木版画。底樋を木製から石造りに替えた後半の伏替普請の様子が描かれています。



### 1 余水吐 入水口

昭和33年の第三次かさ上げ工事で建設された。



### 2 神野神社

1199年に再建、昭和28年より現在の場所に遷座。初ゆる抜き式典が行われる。鳥居は1470年に建立。



### 3 顕彰碑等 左:真野池記

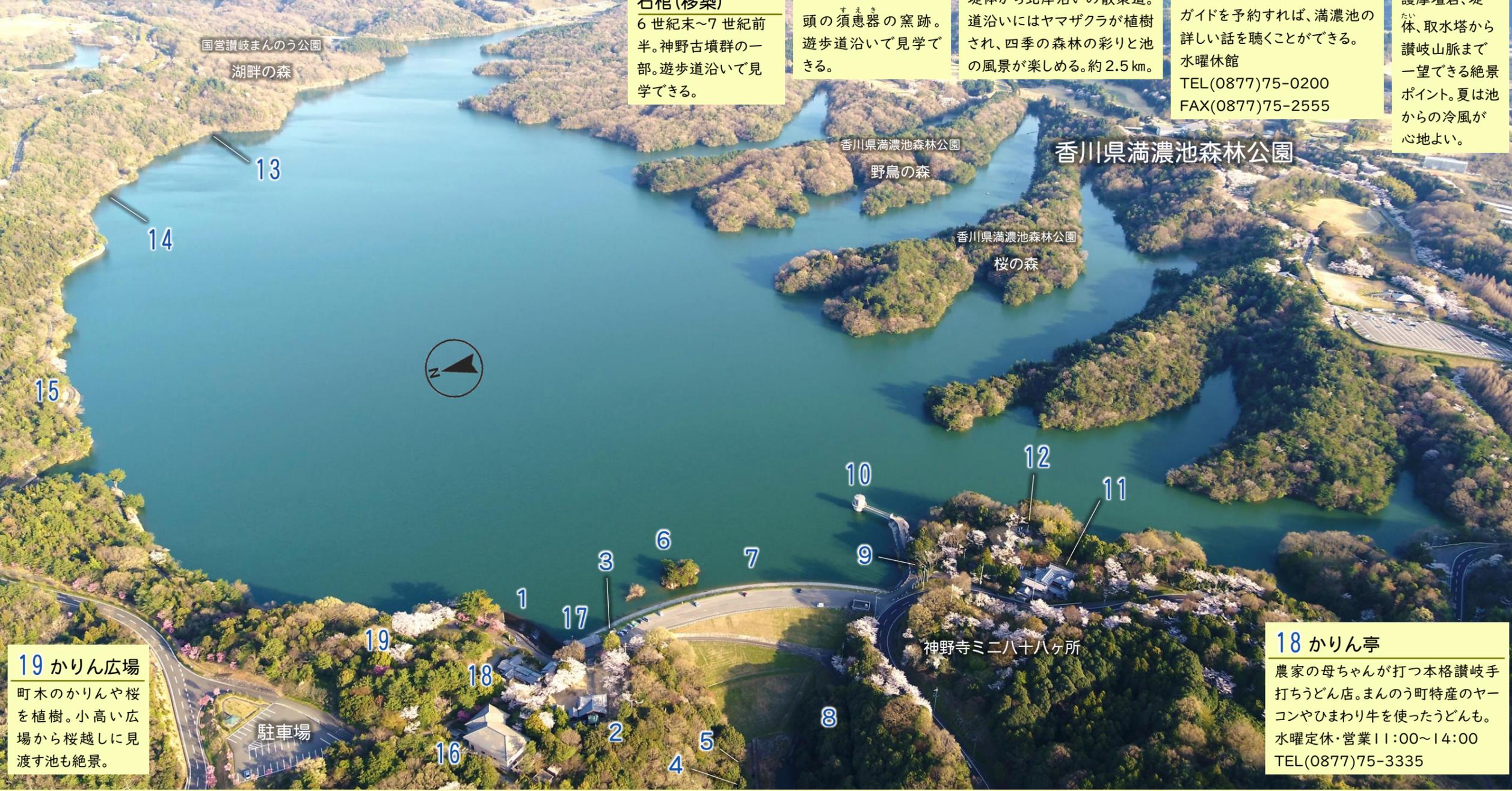
1875年建立。右:松坡長谷川翁功德之碑1931年建立。明治3年(1870)の再築以来、たくさんの顕彰碑が建立された。



### 4 余水吐 放流工

昭和33年の第三次かさ上げ工事で建設。写真は満水時にしか発生しない「幻の滝」。「幻の滝」を見ることができる日は年に30日以下。

## 国営讃岐まんのう公園



### 19 かりん広場

町木のかりんや桜を植樹。小高い広場から桜越しに見渡す池も絶景。



### 5 ほたる見公園遊歩道

左手に余水放流工、右手に樋門を見ることができる。「幻の滝」もこちらから。手前のほたる見公園はボタンやアジサイなどが植えられ四季の花が楽しめる。



### 6 護摩壇岩

弘法大師空海が修築に際し、護摩壇を設けて修法を行ったと伝わる場所。満水すると池中の島となるが、当時は堤を見下ろす山上だった。昭和7年、空海を讃える歌碑が建立。



### 7 満濃池 堤体(堰堤)

土堰堤では全国的にも極めて珍しいアーチ式。昭和33年に第三次かさ上げ工事が完了。堤高32m、堤長155.8m。旧堤体の後方が埋め立てられ、大部分は水没した。



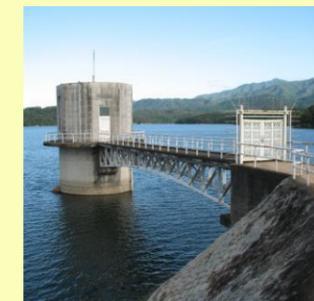
### 8 満濃池 樋門

国の登録有形文化財。明治2年に建造された底樋隧道と出口。底樋の坑口、坑門が石造りで飾られる。樋門間口3.5m、高さ4.2m、底樋管197m。ゆる抜きは毎年6月15日。



### 9 記念碑等

左:満濃池配水塔 大正3年(1914)、赤レンガ取水塔完成記念。現在の台座は当時の外壁の赤レンガを使用。右:修拓記念碑 昭和5年(1930)、第二次かさ上げ工事竣工記念。



### 10 満濃池 取水塔

大正3年(1914)に竣工した「赤レンガ取水塔」の次に造られた取水塔。昭和30年(1955)に第三次かさ上げ工事に伴い建設。堤体と渡塔橋によって結ばれた姿が美しい。



### 11 神野寺 12 弘法大師像

弘仁12年(821)、空海が創建したと伝わる。昭和9年(1934)再建。第三次かさ上げ工事に伴い、現在地に遷座。毎年、初ゆる抜きの際、豊水祈願の護摩が焚かれる。弘法大師像は昭和8年(1933)建立。香川県出身の彫刻家、小倉右一郎作。

### 13 神野1号箱式石棺(移築)

6世紀末~7世紀前半。神野古墳群の一部。遊歩道沿いで見学できる。

### 14 神野1号窯跡

7世紀末~8世紀初頭の須恵器の窯跡。遊歩道沿いで見学できる。

### 15 遊歩道

堤体から北岸沿いの散策道。道沿いにはヤマザクラが植樹され、四季の森林の彩りと池の風景が楽しめる。約2.5km。

### 16 かりん会館

満濃池に関する史資料を展示。ガイドを予約すれば、満濃池の詳しい話を聴くことができる。水曜休館  
TEL(0877)75-0200  
FAX(0877)75-2555

### 17 東屋

護摩壇岩、堤体、取水塔から讃岐山脈まで一望できる絶景ポイント。夏は池からの冷風が心地よい。

### 18 かりん亭

農家の母ちゃんが打つ本格讃岐手打ちうどん店。まんのう町特産のヤーコンやひまわり牛を使ったうどんも。水曜定休・営業11:00~14:00  
TEL(0877)75-3335